

一般社団法人 日本ヘルスケア歯科学会

社員総会（第7期第1回 オピニオンメンバー会議）

日程：3月12日（日） 午前10時00分より12時30分

会場：AP 浜松町 Room E（会場とオンライン参加のハイブリッド形式で開催）

■ 本会議で、提案されたことなど

- 法人会員の新規加入を促す施策を検討する。（斉藤 仁）
- 歯科衛生士正会員に交付するピンバッジは「いらない」。無駄な経費なので再検討すべきである。認定歯科衛生士に贈呈する記念品については適切なものを考えて継続する。（田村 恵）
- 学会ホームページのトップページに一般向け・会員向けに別に「医療従事者向け」を作ることにについて意見を聞きたい。（西村 誠）

■ 上記の提案等についてのコアメンバー会議の回答

1. 法人会員の新規加入を促す施策についてコアメンバー会議（2023年4月14日）に議題としましたが成案を得ず、引き続き協議することとしました。
2. 歯科衛生士正会員に登録時および3年継続会員に交付しているピンバッジについて不要、廃止を求める提案に対して、2023年4月1日から廃止することとしました。なお、ヘルスケア歯科衛生士の認定に際して贈られる赤い金属バッジについては、より好ましい様態を今後検討しますが、当面の間、いままでどおり交付を継続します。

なお、歯科衛生士正会員バッジについて作成・交付の経緯についてオピニオン会議において詳らかにできませんでしたので、過去のニューズレター掲載の記事を議事録に付します。

3. オピニオンメンバー会議後に次のような意見が出ましたが、こうした意見を参考に、ホームページ刷新プロジェクトで現在検討を進めています。
 - ・「予防に関心がある一般の方へ」と「歯科医療関係者の方へ」の二つに分けて、「予防に関心がある一般の方へ」に一般の人や介護などに関わっている予防に関心がある方を対象に、家庭や施設、学校、公衆衛生でのう蝕と歯周病、その他（酸蝕症、破折、歯列、習癖など）の予防に関する情報をわかりやすく解説するのがよい。「歯科医療関係者の方へ」の方は、歯科医療従事者でも予防にちょっとは関心がある人がアクセスすると思うので、どちらかといえば新規会員確保のための情報を主に提示するのがよい。新規開業のためのアドバイス、診療室での予防、記録などの実践方法、そして、ヘルスケアを実践することで患者が増え（これが目的ではありませんが）、これからの人生100年時代を乗り切るのに不可欠！みたいなことを事例をあげて解説するのはどうでしょうか。楽しく診療できる！ということももちろん重要だと思います。
 - ・入り口はシンプルに、一般、歯科、会員の3つにして、一般、歯科の内容は上記のような形が良い。

社員総会（第7期第1回 オピニオンメンバー会議） 議事録

議長：齋藤 健

議事録署名人：加藤 徹／蓮見 愛

- | | |
|-------|---|
| 第1号議案 | 令和4年度 事業報告および決算報告
令和4年度 会計監査報告
監査報告 |
| 第2号議案 | 理事および監事の選任 |
| 第3号議案 | 令和5年度事業計画・予算およびヘルスケアミーティング 2023 について |
| 第4号議案 | その他
1) 10年後ビジョン検討委員会報告
2) 第7期の委員会 プロジェクトチーム フォーラムについて |

田中：第7期第1回オピニオンメンバー会議を始めます。

議事に先立ちまして、議案書にありますとおり、今年は永年会員表彰として70歳以上になられた会員8名の方に、長きにわたり当学会の活動に貢献されたことを謝し、学会として記念賞状と記念品をお贈りいたしました。ニュースレターvol.26 no.1の18ページに載っております、ご覧ください。

本日出席の第7期オピニオンメンバーは、昨年末のニュースレターに信任投票用紙を同封し、1月19日にZoomミーティングにて選挙管理委員会（田中正大・齋藤健・安田直美 敬称略）が立ち合いのもと、事務局にて秋元事務局長が開票しました。今年は6通の返信があり、見るまでもなく全員信任ですが、1枚ずつ確認し、候補者全員が信任されオピニオンメンバー81名が決定しました。ニュースレターの16～17ページに見開きで、新任のメンバー紹介もありますので、ぜひご一読ください。

オピニオンメンバーは委嘱されるわけですが、既に委嘱状が届いていると思います。これから2年間よろしくお願ひします。今期は2024年末までが任期ですが、いつもこの時期（第1回会議）で入れ替わります。

では、初めに議長の選出です。いつも「執行部一任」というふうにいただいておりますが、今回もよろしいでしょうか。特に異議がなければ、今回もお隣にいらっしゃる齋藤健先生をお願いします。よろしくお願ひいたします。

齋藤（以下議長）：今回も私、齋藤が議長を務めさせていただきます。まず会議の成立ですが、お手持ちの議案書の一番後ろのところに名簿が付いています。こちらで会場が28名、オンラインが37名となっておりますが、今日、オンラインで後藤先生が欠席ということ

なので、36名になります。Zoomでの参加の表示数は41ですが、実際の参加者は39なのかなという感じです。

欠席が15、議長委任が15です。オピニオンメンバー総数81名ですので、この会議は成立していることを宣言させていただきます。

(※事後調べ：会場28名・オンライン36名 計参加者64名 委任状15名)

議長：議事録署名人でございますが、山形県東根市加藤歯科医院の加藤徹先生、もうお一方は、千葉県八千代市杉山歯科医院の蓮見愛さんをお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

議長：それでは、第1号議案から入りたいと思います。「令和4年度事業報告および決算報告」については、まず田中先生からお願いしたいと思います。

田中：令和4年度事業について報告いたします。これは読み上げていただくのですが、オピニオンメンバー会議を2回、昨年3月と10月に行いました。コアメンバー会議は毎月、主に第2金曜の夜8時からWeb会議、それから臨時コア会議、リアルコア会議ということで開催しております。

他にも学会誌編集委員会、企画委員会、認定分科会対策委員会、ウイステリア委員会などがウェブ会議で毎月、または隔月で開催されました。

ニュースレターは5回発行しております。学会誌が年末に発行、年明けに届いたと思います。

「ヘルスケアミーティング2022」は10月に田町の建築会館にて、オンラインとのハイブリッドで開催しまして、リアル会場が久々に百数十名の参加を見て、にぎやかに行われたと思います。

認証ミーティングは7月に行いました。7診療所が審査を受け、認証されました。

セミナーはWebの活用で活発に行われています。第4期実践セミナーが全8回のオンライン、神戸ワンデーセミナー2022(兵庫ヘルス主催)、それから歯科衛生士の育成プログラムはコロナで第14期がかなり停滞しましたが、昨年前半に全て終了し、実技検定も終了しました。秋からは第15期に入り、現在、実技が第2回目までが終わって、今月、第3回、検定まで行われる予定になっております。あとは、新たな企画として、ヘルスケア歯科衛生士新人初期研修がZoomミーティングで行われました。

Webセミナーもかなり数多く開催しました。eラーニング、最初の共有画面にも出ておりましたのでご覧いただけたと思いますが、Vimeoで「リエスマネジメントセミナー」全7回がオンデマンドで配信中です。それから、オンラインサロン。これは毎月第2火曜日に定期的に行われております。いろんなテーマで開催されております。昨年度の事業については以上です。

議長：ありがとうございました。申し遅れましたけれども、以前よりこのヘルスケア歯科学会では呼称は「さん」付けで行っておりますが、Webで参加の方がいらっしゃいます

ので、歯科医の方は「先生」、その他は「さん」付けで進めたいと思います。 それでは、決算報告は秋元さんからお願いします。

秋元：はい。議案書の 5 ページから 10 ページまでに載っておりますのでご参照いただけますか、私のほうで整理した文章がありますが、概略を申し上げますと、前年は非常に大きなマイナスを出しました。それは主にコロナによる急な会場キャンセルや、セミナー関係で返金をしたこと、そういうことが諸々重なりました。今期は逆に、大きな前年度のマイナスを埋めて、ややプラスとなっています。

経常収益として 1 行目に書いてありますが、前年比で 642 万円増と。前年がとにかく悪過ぎて四百何十万円のマイナスだったので、大きなプラスではないのです。公益法人の会計では収入のことを収益と言うんですが、収益で約 2,000 万円。それに対して、費用が事業に関して 947 万 3,000 円。管理関係はほとんど変わらず 938 万円の費用で、その結果、収支差額で 184 万円のプラスとなった次第です。前年 400 万円のマイナスだったところ、それが大きく変わりました。

実はこれ「大きなプラスが出たんじゃない」という皆さんの誤解を防ぐために、それから前年の大きなマイナスというのもちょっと誤解されるといけないので、10 ページに催し物ごとの収支を示しております。歯科衛生士育成プログラムの前年のマイナスといたしますか、この第 14 期の育成プログラムというのは、私も調べるまで分からなくなってしまったのですが、この 14 期の収入（受講料）は 2019 年に受けています。その 2019 年に受けたものを本来なら 2020 年に実施するんですが、それが 2022 年にまで延びたということです。

つまり、2020 年、2021 年は「入ってこなくて出るばかり」ということです。そのために、2019 年に対して 2020 年、2021 年が非常に悪く見えています。金額が大きいので、入ってくるほうが 1 人 15 万円の 24 人というのと、補講分 2 万 5,000 円ですから、ざっと合計 360 万円が入ってきます。これが 2019 年に収入が大きくシフトして、後がない。本来であれば、その翌年に実施する次の会の収入があり、ずれていきます。本会の会計が発生主義を取っておりますので、非常に分かりにくいです。

今期のプラスというのは、実は大きなプラスではなくて、実質的には第 15 期の、大阪と東京に分けて開催中ですが、15 万円を 10 名分、2 カ所というこの 300 万円が、実は先ほどのプラスの中には入っております。もちろん、費用もすでに実技 1 回分だけは去年に実施していますから、費用も 3 分の 1 は出ています。

つまり、前年度の収支は実際よりも悪く見え、今年度の収支は実際よりも良く見えているということです。ですので、先ほどの数字を、そのようにご理解をいただきたいと思えます。

他は、企画商品に関しては少し減っているといたしますか、振いません。それから、この会の場合は大きな収入を会員の会費に依存し、そして一部、収益事業という形で企画商品というものを売っていますので、その企画商品の売りが下がると費用のほうが大き

なって、今期はこの会としては消費税は払わないだけでなく、5万7,000円の消費税の還付を受けるという計算になっています。

以上、今の皆さんにお示ししました10ページの「セミナーごとの収支」のところはセミナー単位で書いてありますので、むしろこちらをご覧になれば、一つずつどういう収支であるかはお分かりになると思います。

今回の場合は、事業としてはニューズレターの発行、会誌の発行、それから経常的な事務局経費を除きますと、このセミナー関係の支出が非常に大きいので、変動するのはこの部分ですから、ここを見ていただきたいと思います。

ニューズレターに関しては、先ほど田中先生の報告からありましたように5回なんですけど、ページ数が全体的に多めになっています。平均28ページになっていますので、だんだん増えている。その関係で費用が多少増えているということはありません。

セミナーに関しては、金額的には小さいですが、活発にWebセミナーを行ったということがありますが……。Webセミナーは、「その他セミナー」に含まれています。例えば9ページとか、それから6ページの「実施事業会計」の部分の「その他セミナー」というのが当年度202万5,000円あり、前年度が77万円ですので、この増加のかなりの部分はWebセミナーによるものです。

以上、決算報告とします。それで2月16日に鈴木正臣先生と河野正清先生、監事お二人に事務局に来ていただきまして、会計監査をしていただきました。以上です。

議長：ありがとうございます。それでは次は会計監査報告なんですけど、会場にいらっしゃる監事の河野正清先生からお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

河野(正)：河野です。秋元さんがおっしゃったように、2月16日に会計監査を行いました。

会計報告および帳簿類、それから領収書等が適正に処理されていることを確認いたしました。

議長：ありがとうございます。では、ここから質疑に移りたいと思います。会場の方は挙手にて、オンラインの方は「手を挙げる」でお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

よろしいですか。それでは第1号議案につきまして採決に移りたいと思います。第1号議案に賛同していただける方は、会場では挙手にて、オンラインでは「手を挙げる」でお願いしたいと思います。オンラインの方々には皆さん、手を挙げていらっしゃるだけですかね。

議長：はい、それでは第1号議案につきましては賛成多数ということで、次の第2号議案に移りたいと思います。

秋元：すみません。一言よろしいですか。

議長：はい、お願いします。

秋元：補足しまして、いつも会員数の減少ということ、それに伴う基礎的な収入の減少ということをご報告しておりますが、まだ今期は非常に明確というわけではないですが、ほぼ会員数減少が底を打ったという状況です。ご案内のように、この会の場合は会費の納入を

もって会員としておりますので、2年間会費が納入されない場合には自動的に退会という処理になっております。

ですので、遅れて払ったりすることによって振り返って会員が戻ってくる場合があります。その確定が2年を過ぎないとできません。そういう意味で、まだ明確ではありませんが、ざっと今までの入退会から見ると、自然退会者はほぼ、ここ3年ぐらい変わらないですが、自然退会者に対してご確認のはがきを送るなどのことを実施しており、入退会のプラスマイナスが6年振りにプラスに転じました。つまり、自主的に申告退会、および自然に退会される方と入会される方のプライマイナスが、プラスになりました。

これは偶然にできたことではなくて、入会者の増というのがはっきりしておりますので、恐らく今まで長い期間、非常に緩やかではありますが、退会者が入会者を上回るという傾向が続きましたが、ほぼ底を打ったという印象です。

もちろん、設立時の98年会員の方が本会の場合はまだ非常に多いです。その方々の平均年齢は非常に高くなっています。それに伴う世代交代であるとか、医院を閉じられる方が出てきますので、自然退会者は今後も一定数続くわけですが、ほぼ底を打った感じかなというところですね。このことは今までいろいろご心配をさせていただき、対策も重ねてきました関係上、ご報告させていただきました。

議長：ありがとうございました。では、第2号議案「理事および監事の選任」に移ります。

ここも秋元さん、一言ございますか。

秋元：私事ですが、皆さんのお手元にある理事・監事の投票用紙の中に名前がありますが、現コアメンバーの中で話し合った結果、今回、私は立候補を辞退することにいたしました。

「歯科医師以外の人間が執行部に1人でもいるということは重要だ」と、「外の目があることは重要だ」ということを私自身は主張してきましたが、年齢的にすでに71歳になっております。老害であるということ。とにかく、それ以上に「声大きい」という、持って生まれたものがありまして、今期、執行部が新体制になるに当たって、この弊害を一つ取り除いておこうということがありました。投票用紙から削除ということをお願いいたします。

議長：ありがとうございました。それでは、田中先生からお願いいたします。

田中：理事に立候補している身でありながら選挙管理委員長でもあるという、「できれば来期はどなたか」と前回も言った記憶があるんですが、どなたもやってくださらないので、そのまま問題はないものと思って続けさせていただきます。

理事および監事の選任につきましては、定款の第24条により、過半数の社員が出席し、これはここではオピニオンメンバーですね。その出席した当該オピニオンメンバーの議決権の過半数をもって行くと。会場はお手元の投票用紙に、左の枠でもいいし、全員信任だったら「全員信任」に丸を付けていただいても構いませんので、それを投票し、事務局がすぐに集計して、問題なければ新コアメンバー・監事が決定するということになるのか

と思います。

では、早速始めます。投票用紙がない方、いらっしゃいます？ 大丈夫ですか。全員信任の場合は「○」を、「こいつ駄目だ」という人にはバツを付けると。オピニオンメンバー信任投票でも毎回、今年は 6 通でしたが、ちゃんとバツを付けてくださる方が会員の中にはいらっしゃいます。遠慮はいりませんので、全員信任に丸か、もしくは、信任しない場合は各候補者にバツをご記入ください。

1~2 分おきます。オンラインの方は、このオンライン上に投票が出ますので、理事・監事信任投票、「全員信任」をチェックするか、信任しない方にチェックを入れるか、どちらかで送信してください。1 分でお願いします。

若井：田中先生、若井です。2 番のほうの理事のほうが、「全員信任」というのがなくて送信できません。

渡辺：今、投票を作り直します。

田中：新しいのを作りましたので、投票をよろしくお願いします。

田中：(1 分後) はい時間となりました。投票結果 (画面) はもうご覧のとおり、過半数で信任ですので、Web 上も投票用紙上もはるかに過半数を上回っていますので、12 名全員信任ということで決めたいと思います。(拍手)

ありがとうございました。この後ですが、定款第 25 条により、これから別室で臨時理事会を開催します。そこで新代表 1 名、副代表 2 人以内、専務、それから事務局長 1 人を選択することになります。10 分くらいで戻ってくると思います。その間、しばし休憩といたします。

————— 約 20 分休憩 —————

議長：皆さま、お待たせいたしました。ただ今、臨時理事会が終了いたしました。事務局長の秋元さんから結果のご報告をお願いいたします。

秋元：はい。理事でない事務局長の秋元から、臨時理事会のご報告をいたします。会場の理事、オンラインの藤木先生を加え、新任理事 11 名の参加 (岡本昌樹氏、欠席) により別室にて役員を選任を行いました。役員を選任は互選で行いまして、新任代表に高橋啓 (あきら) さんを選任いたしました。高橋啓新代表について、参加全員の同意が得られました。

次いで、代表は、副代表および専務を指名することになっており、千草隆治さんと杉山精一さんの 2 名を副代表に選任されました。併せて、専務理事には田中正大 (まさひろ) さんを選任されました。臨時理事会における新役員人事のご報告をいたします。以上です。

田中：ありがとうございました。それでは、新代表となられました高橋先生から、お一言頂戴したいと思います。

高橋：皆さん、どうもこんにちは。今期から代表をやらせていただくことになりました、高橋啓です。よろしくお願いします。Web の皆さんもよろしくお願いします。

僕が皆さんに言えることとしては、やっぱり今のヘルスケアをさらに発展させようと

いうことかなと思います。

僕自身、世代としては、次世代というより、1.5 世代的な立ち位置かなというのがあって。ただ、ヘルスケアで学んでいなかったら、今の診療室は絶対にあり得なかったと思っています。なので、この臨床は本当にいいなと思っていますし、それがもっと広がればいいなと思っています。ですので、ヘルスケア歯科学会をより発展させていきたいというのがあります。

では、具体的にどうかと言われますと、細かいことまでは今ここでなかなか皆さんに伝えられませんが、今まで積み上げてきたものを大事に、大切に、さらに発展させたいかなと。杉山先生とかもよく、「ヘルスケアはボトムアップの組織であって、歯科医師会とかみみたいな縦割りの組織じゃないんだ」と言われます。

よく、特に発足当初からの皆さんは、今日も少し話がありましたけれども、「設立趣旨にのっとなって」というような話が出ます。オピニオンメンバーの皆さん、今日のこの委嘱状にも、一番最後の文章には「設立趣旨を胸にご尽力ください」と書いてあります。ですから、若い世代の方はぜひ、ホームページ（あるいは学会誌）にある設立趣旨に今一度、目を通してもらえたらなと思います。

ただ、時代はどんどん進化もしています。変化していかないといけない部分もヘルスケアにも当然あるかと思っていますし、皆さんが感じている部分もあるかと思っていますので、それはぜひ、一緒に「みんなで」やっていきましょう。

今、いろんなことを話しましたが、僕がこの代表でみんなに一番伝えたいことは何かと聞かれたら、ヘルスケア歯科診療は元々「楽しい診療」のはずなんです。楽しくやりましょう、ね！ それで、長年やっていると、正しさを追求するあまり、いろんなことが摩擦になって出てきたりするんで、元々は絶対これは楽しい診療なはずなんで、楽しくやらしてもらえたらなと思います。高橋からのあいさつは以上です。よろしくお願いします。（拍手）
議長：新代表の高橋先生、ありがとうございます。それでは、副代表のお二方からも一言お願いしたいので、まず、千草先生、お願いいたします。

千草：僕も秋元さんには及びませんが、98 年会員で、どちらかという引き継がれる側というか、去っていく年代かと思っていましたが、高橋代表から「一緒にやってくれ」とお声掛けいただいたので。高橋代表とはコアに入ったのが同期だったと思います。一緒に入っているいろいろお話もたくさんしてきました。考え方も理解しているつもりですので、できる限りサポートしていきたいと思います。

そして、自分の世代も考え、次へのつなぎ役に徹したいと思います。今、若い先生がいっぱい入ってこられています。そういう若い先生たちとももう少しコミュニケーションを取らせてもらって、次の世代にしっかりつなげるように、間に入っていきたいと思います。よろしくお願いします。（拍手）

議長：杉山先生、副代表からのごあいさつを一言お願いいたします。

杉山：はい。先ほど私から話しましたので、今度は副代表として高橋代表を支えていきたい

と思います。よろしくお願いします。(拍手)

議長：ありがとうございました。それでは、専務理事になられました田中先生です。

田中：また専務理事を仰せつかりました田中です。今回、全然変わっていない1人なんですけれども、今、議案書の最後の名簿を見たら上から3番目、随分長いこと会員をやっているんです。私も高橋先生と同じで、ヘルスケアに出会っていなかったら今の診療室はないと思って、大変感謝しています。ですから、できるだけ私の力を会のために使いたいなと思っています。もう2年、もう2年って、2年で終わるとは限らないんですけれども、この任期中はまた頑張りたいと思います。よろしくお願いします。(拍手)

議長：次は、事務局長となられております秋元さんに一言お願いします。いや、いらないですか。では、新規コアメンバーとなられました、河野雄一郎先生からお願いします。

河野(雄)：皆さん、こんにちは。愛媛の河野と申します。新任の3人の中では古株で年上ということで、僕が最初にあいさつをさせていただきます。

僕自身は先頭に立っていくタイプでもないですし、何か素晴らしい臨床をしているというタイプでもないんです。妻にも「あなたはトップで輝くタイプではない。2番目、3番目で輝くタイプだ」といわれています。はなはだ、理事という立場は力不足かと思えますけれども、僕に期待されているのは若手会員とのつなぎ役かと思っております。若手の会員の方は僕には気兼ねなくご相談ください。よろしくお願いします。(拍手)

議長：ありがとうございます。次も、新規コアメンバーとなられました古市貴暢先生、お願いします。

古市：香川県高松市で開業しております、古市といいます。このたびは新しくコアメンバーの信任していただき、ありがとうございます。

僕は四国のスタディーグループ「ITS(イツ)」の代表をしております。副代表として河野(雄)先生にサポートしていただいています。先ほど河野先生が言ったように、河野先生は本当にナンバー2としていろいろとまとめていただいて、僕がほんまに「神輿の上で輝いておったらそれで構わん」という、そういう感じなんで、新しいコアメンバーの中でも、何かあったら全て河野先生にお願いすれば大丈夫やと思います。よろしくお願いします。

僕は、ご存じの方もいらっしゃると思いますが、FacebookとかInstagramなどで非常に自分が楽しいことを優先して人生を歩んでおります。高橋代表がおっしゃったように、ヘルスケアというのは楽しい歯科診療だと思っております。皆さん、自分が楽しい歯科診療を行い、それが患者さんの利益につながるというのが一番いいかなと思っております。それを目指して皆さん頑張っていきましょう。失礼します。(拍手)

議長：ありがとうございました。では、次は曾野偉錬先生ですね。よろしくお願いします。

曾野：兵庫県神戸市の曾野です。皆さん、このたびは選任いただき本当にありがとうございます。私自身はこの学会にお世話になってもう10年ぐらいになると思います。その間、開業したり、もちろんスタッフのこととか、いろんな教育のこととか、本当にたくさんの

先生方にお世話になりました。これからも先生方にまたいろいろとご教示いただきながら精進していきたいと思っています。そうしながらもいろんな先生方のお手伝いもまたしっかりできればと思いますので、選任いただいた皆様のご期待に沿えるように精一杯頑張りますので、よろしく願いいたします。(拍手)

議長：ありがとうございました。オピニオンメンバー会議は時々、無茶振りがあります。新たに第7期オピニオンメンバーになられた方に一言お願いしたいので、まず、会場から高澤淳仁先生、お願いいたします。

高澤：おはようございます。第7期のオピニオンメンバーに選んでいただきました、高澤と申します。急に振られてちょっとびっくりしています。一昨日からWBCが始まっておりますけれども、一番下っ端として、「ペッパーミル」で頑張りたいと思います。よろしく願いいたします。(拍手)

議長：それでは、オンライン参加での先生にもお願いをしたいと思います。ほんだ歯科クリニックの本多毅先生、いらっしゃいますか。よろしく願いします。

本多：おはようございます。本日はZoomでの参加で大変申し訳ありません。兵庫県神戸市で開業しています、本多毅と申します。このたびは推薦していただいた先生方の期待に応えられるよう、そして、この学会の今後の繁栄のために自分にできることを精一杯務めてまいりますので、どうぞよろしく願いします。(拍手)

議長：ありがとうございました。続きまして、福岡県福岡市の飯田太一先生、お願いいたします。

飯田：福岡県福岡市で開業しております、飯田太一と申します。よろしく願いします。このたびはオピニオンメンバーに推薦いただき、ありがとうございました。私もヘルスケア歯科学会に関わらせていただくようになって6年、7年ぐらいたつんですけれども、今まで教えていただくばかりでしたので、何か会のためにできたらと思っております。よろしく願いいたします。以上です。(拍手)

議長：ありがとうございました。それでは、続きまして神奈川県高座郡の坪川正樹先生、お願いいたします。

坪川：坪川です。神奈川県の高座郡というところで開業しております。このたびはオピニオンメンバーに推薦していただきまして、誠にありがとうございます。高橋先生もおっしゃっていました、「本来は楽しい診療だ」ということ。今後、会がより自分のためにも、皆さんのためにもちょっとでも楽しい場になるといいなと思っております。今後ともよろしく願いします。(拍手)

議長：ありがとうございました。副代表を退任される札幌の斉藤仁先生、お願いします。

斉藤：今回、新たにコアを辞めました斉藤です(笑)。コアメンバーを約20年やって、今、若い先生方に話しをしても分からない方もいると思いますが、設立当時の中心的なメンバーだった熊谷崇先生がいた頃から僕はコアをやっているんです。熊谷先生が辞められる時に、僕の診療室に直接電話がかかってきました。僕は、結構熊谷先生には目をかけて

いただいていたんで、当時、若かったですが、雲の上の先生から直接電話がかかってきて、「何事かな」と思ったんです。その時、「こっち来ないか」と、「熊谷グループのほうに来ないか」と僕は言われました。ただ、その条件として「ヘルスケアを辞めなきゃなんない」ということを言われました。このことは、今だから言える話です。そう誘われた時に、ヘルスケアを辞める理由は全く僕にはなくて、「申し訳ないんですけど」と言って、こちらに残ったんですよね。

それは、今考えると確実に正解だったと思っていますし、先ほど先生方がおっしゃっていただいたように、「ヘルスケアがなければ今の自分はない」と思っています。

今回、20年長くやったこともあり、若い先生方へのバトンタッチということもあり、コアをおりました。別にクビになったわけじゃないので、自分でちょっと別な立場から会に関わろうと思っています。20年ぶりにこっち側の席（コアサイドではない席）から見て、「皆さん、素晴らしいなあ」と思って眺めておりました。

先ほど他の先生方とも話していたんですが、前に「コアメンバーの風通しがあまりよくない」とか、「距離が遠い」的な意見もあったので、どちらかというオピニオンメンバーとしてもコアメンバーとのつなぎ役というか、なるべくそこの距離を短くするために私を今後利用していただければと思います。別にやっていることは変わらないので、会の仕事を一生懸命やりたいなと思っていますので、よろしくお願いします。（拍手）

議長：ありがとうございます。それでは、第3号議案「令和5年度事業計画予算およびヘルスケアミーティング2023」について、こちらは田中先生ですね。

田中：はい。2023年度のオピニオンメンバー会議は、第1回目が今日、スプリングセミナー併催でも行われております。年に2回の開催です。第2回は10月15日の予定です。併催セミナーなどは決まっておりません。日程だけが決まっています。来年の今頃に、第7期第3回目をやる予定です。

それから、ニュースレターは5号発行の予定ですが担当の林浩司先生、何かありますか。

林：1号はつい先日、お手元に届いたと思います。2号の原稿締切りが今月の末です。何か原稿を考えている方は3月末までによろしくお願いします。2号はゴールデンウィーク後に発行予定です。

田中：ありがとうございます。斉藤先生が記事を書いてくださるそうですので、お願いします。

斉藤：はい。

議長：それから、学会誌の発行について、千草先生、何かございますか。

千草：最近、ここでも何度か話題に上がっていますが、認定分科会の申請に学会誌が大きく関係します。そこに動きを左右されているような活動になっていますけれども。今後、それに関わらず、症例報告プラス原著の投稿を切に求めていますので、皆さんの手元のデータで何か過去との比較なり新しい発見とかいうのを、できるだけ気軽に、短いボリュームで構わないので投稿してもらえよう、そういう活動ができるような仕組みを

つくろうと今話し合っています。そういう時にも協力をお願いいたします。

議長：ありがとうございます。それから、今期企画されているので「第5期実践セミナー」、6月からですがけれども、河野先生、一言お願いします。

河野（雄）：「第5期実践セミナー」として、今年は久しぶりに、コロナも落ち着きましたので、合宿形式で実践セミナーを行います。去年1年間、全てオンラインで行いましたが、今年は東京ワンデーセミナーへのリアル参加、幕張での合宿を行い、その後オンラインでフォローするという形で開催します。ぜひとも皆さん、該当者へのお誘いをお願いいたします。

議長：ありがとうございます。続きまして、同じく6月に開催される「東京ワンデーセミナー」について、林先生、お願いします。

林：「東京ワンデーセミナー」は6月25日に開催予定です。今回はリアルに会場での開催を予定しています。

なるべく多くの方にスタッフを連れて参加していただければと思います。詳細はニュースレター2号にフライヤーを入れますので、申し込みをよろしくお願いします。

議長：ありがとうございます。それから認証事業「健康を守り育てる診療所」認証ミーティングは7月9日に予定されております。詳細はニュースレターで発表します。

「ヘルスケアミーティング2023」は、11月3日（金祝）・4日（土）に開催されます。これについては渡辺先生、お願いします。

渡辺：まず、「活動性」というものに関して、今までヘルスケアでちょっと踏み入れていなかったもので、そこを中心に初日は考えています。

それだけではなく、2・3年前かな？ヘルスケアミーティングで「カリオロジー」の話をした時に、会場から「実際にどうやって声掛けして、どうやってリスクとか変えていったんですか」という質問がありました。ですがなかなかこちらでお答えができなかった。それに対する回答など、何かそれに示唆できるようなものをお伝えできればいいかなと思います。

ちょうどいいタイミングで『歯科評論』から、今年のゲストスピーカーとして登壇予定の景山正登先生が、3月号から5月号まで活動性に関して、咬合面・隣接面・平滑面など部位別に分けて執筆されています。ぜひ、参考にして当日参加していただければ、より深まるのではないかと思います。2日目に関してはどなたがいいですか。

丸山：2日目、25周年式典というほどではないですが、「25周年を迎えたに当たって」という形で、恐らく新旧代表の話があったり。この25年の間にヘルスケアが取り組んできたことをいくつか発表したり。あと、ニュースレター1号でもご覧になっていただいているかもしれませんが、記念企画というのがいくつか、エントリーしてもらったイベントがあったりしますので、それらの表彰も行いたいと思います。ぜひ皆さん、ご協力よろしくをお願いいたします。以上です。

議長：ありがとうございます。「認定分科会申請」に関しては高橋先生でいいですか。

高橋：日本歯科医学会の認定分科会への申請は、この夏に予定をしています。1回でパスできればいいと思っているんですが、そうじゃないことも想定して準備を進めているところですよ。

議長：ありがとうございます。あと、「その他各種セミナー」について、詳細は略しますが、ニュースレター、ホームページ、SNS（Twitter・LINE・Facebook）等で随時情報は発信していますので、ご参考にしてください。

丸山：ちょっとすみません。企画委員会というのをやっております。現時点で決まっていることを二つ報告しておきます。

Webセミナー、不定期で日曜日にやっているスタイルです。5月21日に、当会の会員の泉英之先生から、外傷と移植に関するセミナーを午前中の半日で開催します。6月11日、やはり会員で九州の有松稔晃先生から、矯正専門医のほうから、一般の診療をされている先生への提言というか、アドバイスとかをいただけるようなお話をさせていただくことになっています。ニュースレター等でもこれから告知していきますが、まずオピニオンの方にお知らせしますので、ぜひご参加ください。よろしくお願いします。

杉山：すみません。9月3日に東京で1日（リアル会場）の、カリエスマネジメントのセミナーを行います。内容的には昨年、私が出した本に準じて。「本買ったけど、中身はパラパラとしか見てない」という人は、ぜひ参加してください。「私がしゃべるだけでは駄目だ」とくぎを刺されましたので、今日来ている蓮見さんに、まだ打合せは全然していませんが、「歯科衛生士の視点から」として話す予定です。どうぞよろしくお願いします。

田中：それから、コアメンバー会議はWebで毎月、あと、臨時コア会議、それからリアルでやるコア会議、そういうのも予定されています。また、eラーニングも引き続き、今あるのも含めて企画していきたいと思います。予算に関しては秋元さんからいいですかね。

秋元：本来は予算書を提出しなければいけませんが、なかなかそういう体制になっておりません。申し訳ありませんが、今回の決算に対して大きく変化する部分ということに記載させていただきました。ご理解ください。

まず収入の部においては、ヘルスケアミーティングの参加収入が2022年に対して若干増えるであろうということです。それから、費用の部に関しましては、学会のホームページ、インターネットのサイト全体を刷新することになっておりますので、これが今期中に完成するかどうか分かりませんが、外注費が一定程度かかります。動画を比較的多用するというようなことにもなりますので、だいぶ雰囲気違ったものになると思いますので、そのための費用を一応計上しております。

それから、歯科衛生士育成プログラムに関しましては、先ほどの予算のところでも申しましたが、6日間、3回開催するうちの2回の開催になるわけです。ですから、今期に比べると3分の2の費用がかかりますので、今期に比べると費用が増えるということです。

以上、予算案とさせていただきます。

議長：ありがとうございました。ここから質疑応答に入りたいと思います。ご発言がある方

はお願いいたします。

特にございませんか。それでは、議案でございますので可否をお願いしたいと思います。オンラインでご参加の方は、今画面上に投票が出ていますので、こちらからお願いいたします。会場の方はご承認いただける場合は挙手にて。オンラインの画面は2号議案、「投票2」と書いてありますけれども、3号議案についてでございます。

では、会場の皆さま方、ご承認いただける場合は挙手にてお願いいたします。皆さま、挙手いただきました。ありがとうございます。オンライン参加の方、よろしくお願いいたします。

議長：（オンライン投票）終了いたします。こちら「第2号議案」と書いておりますが、「第3号議案」のことで。皆さま、ご承認いただきました。ありがとうございます。

議長：それでは次、第4号議案「その他」になりますが、「10年後ビジョン検討委員会」からのご報告です。曾野先生、お願いいたします。

曾野：はい、10年ビジョンの検討委員会の報告は今回が最終の報告になります。

10年ビジョン委員会が昨年の7月から年末までの期間限定で結成されました。月1回のミーティングを重ねてまいりましたが、内容は「10年後のヘルスケア歯科学会がどのようになっているか」と、または「どのようになりたいか」ということが議題だったのですが、メンバーから声が挙がったのは、「10年後の、またその先の学会の存続について」でした。

先ほど、秋元さんからもご報告がありましたけれども、2022年の時点ではやっぱり会員の減少と、収支でも赤字という報告がありました。そこで委員会の中で話し合ったのは、会員数が増える取り組みです。「会員がどのようにすれば増えるのか」というのを話し合いました。

まず挙げたのは、会員以外の方々へのアピールです。例えばホームページの整理や改編などですが、既にホームページについてはチームが発足していて、現在、進んでおります。他には、地方会の活性化です。現在、活発に活動している地方会と活動が無い地方会があるようです。地域で活発な活動を行うことで、その地域の方々に参加しやすい環境をつくっていければいいなと思います。それらのことや新たな取り組みを行うことで学会がより活性化して、10年後により会員が増えていければいいなと考えております。

また、学会の強みの一つとして、歯科衛生士の教育があると思います。現在も認定衛生士の基礎コースなど、しっかりとした育成セミナーがあります。このようなセミナーの機会をより会員の皆さまに浸透して、各クリニックのレベルアップであったり、スタッフ教育に注力していけるような環境づくりがよりされていければと思っております。

このように10年後、ドクターだけでなく歯科衛生士や助手、他スタッフ、もしくはその他の多職種の方々も学会に参加して、ヘルスケア歯科学会が歯科から社会を盛り上げていけるような環境がつけられていければいいなと思っております。「10年後ビジョン」

からは以上です。

議長：ありがとうございました。二つ目、「第7期の委員会、プロジェクトチーム、ファースラムについて」、こちらは丸山先生、お願いいたします。質疑等は1、2が終わりましたらまとめてお願いしたいと思いますので、丸山先生、お願いいたします。

丸山：はい。前期、第6期から、オピニオンメンバーの皆さんにはいくつかのチームを提案させていただき、オピニオンメンバー会議に出席するだけでなく、普段、ヘルスケアに取り組むだけでなく、何かしら会の活動に関わっていただきたいということで、いくつかのチームを立ち上げて参加していただいております。

今回も、お休みになるチーム等もあれば、新しくできるチームもあればということで、第7期の皆さんにも確認させていただいております。

すでに2月の初めにお伺いをして、取りまとめたエクセルファイルを今日中にオピニオンメンバーリングリストに上げますので、ご確認ください。お返事をいただいてこのメンバーという方には丸印が入っていて、お返事はいただけなかったんですけども、「基本、前と一緒だな」という方には、それなりの印を付けた一覧を送らせていただきます。それぞれ、1カ月、2カ月に1回、何らかの活動があると思われまますので、今後ともそちらをよろしくお願いいたします。

あと、フッ化物のチームを立ち上げようということになりましたが、手を挙げていただいた方が少なく、どうしようかと思っていたところ、高橋新代表が「じゃあ、ちょっとここ、てこ入れしましょうか」という話になりました。新代表も関わられるということで、追加募集をさせていただきます。当会、フッ化物に関して関心を寄せる方は多いですけども、実際、会でフッ化物に関する何をか進めようということになると、杉山さんはじめ、一部の方の声が大きかったりするかなあとしますので、ぜひ、ボトムアップの意味でも、皆さん、ご参加いただければと思います。

このチームの活動がどんどん活発になれば本当にいいなと思いますので、よろしくお願いいたします。

あと、もう一つ。エクセルでメンバーの表を送りますけれども、「もし、違うとかってあれば送ってください」ですけども、基本的にオピニオンメンバー以外の方のメンバーも受けるチームもできています。各メンバーがどこに所属していらっしゃるかは、だんだん把握し切れなくなってもいいかなとは思っています。ただ、オピニオンメンバーの方は、少なくとも何か一つにはご参加ください。

実は、どこにもご参加いただいていない方が何人かいらっしゃいます。その方々はやっぱり今日の会議にも欠席だったりします。この件に関して、そろそろコアメンバー会議で私は何かしらのアクション、提案をしようかなと思っております。以上です。

議長：ありがとうございました。それでは、この第4号議案につきましてここから質疑に移りたいと思います。何かございませんでしょうか。杉山先生、お願いします。

杉山：「10年後ビジョン検討委員会」の報告は、前期コア会議からメンバーを選任してお願

いしたことです。今日、曾野さんから報告をいただきましたので、それに対する意見とか、感想とかを述べさせていただきたい思います。

毎月、Web 上ですかね、協議をしていただいております。いろんな意見がたぶん出たんだろうなと思っていますし、そういうこと自体もとても有意義だったんじゃないかと思っています。

前回と同様にホームページの改革、これが一番優先度が高いということです。そう理解していいですかね。秋元さんからは先ほど、「今年度中にできるかどうか」というような話もちらっと出ていました。そのあたりはやはり突っつく人がいないとなかなかうまくいかないと思いますので、ぜひ、ホームページのところが早くいいふうになるように監視をしていただいで、意見をさせていただければと思っています。

また、それ以外のところは、地方会とか歯科衛生士の制度、この辺は充実するように、曾野先生もコアメンバーになったので、コアの中で議論をしていただいで具体化していければいいんじゃないかと思っています。

当初、秋元さんとかはもっともっと大きな、「会の根底から変えるべきだ」というような意見が出るのかなという期待もちょっとしていたんですが、そういうことではなく、具体的な、極めて現実的な回答をしていただいで、本当にこれを具体化していくんだなということがよく分かりました。ぜひ、そうしていければと思っています。

ただ、ここから先は私の個人的な意見、個人的な、今のもそうなんです。この会ができて 25 年、歯科の保険制度もすごくこの会の流れに沿うような、特に SPT ができたり、フッ化物が保険点数に入ったりという、そういう流れになってきています。ぜひ、「それをやってどうか」というデータを取るとか。

というのは、この先、多分 10 年先、なかなか想像が難しく、社会が激変するんじゃないかと私は個人的に思っています。生産活動をする人が減るとか、日本の経済が縮小するんじゃないかということになってくると、当然、医療にもものすごい寄せがくるので、その時に、歯科のこういうせつかく良くなってきたものが周りから削減されるんじゃないかという時にこそ、そういう備えをしておかなきゃいけないのかなとも、ちらっと最近思っております。そういうことも、ちょっと私からの意見としては言わせていただきました。以上です。ありがとうございます。

議長：ありがとうございました。他にございませんでしょうか。斉藤先生、お願いします。

斉藤：執行部を辞めた途端、執行部に何かもの申すということはありませんので。(笑)

先ほどの「10 年ビジョン」の話の時に、会員、歯科医師会員増という話が出ましたが、法人会員が設立当初に比べるとかなり減ってきているというのもあるので。法人会員のメリット、ヘルスケアミーティングなんかで法人会員の展示がたくさん出ていると結構活発に人も動くと思うので、法人会員に新しく入りたいとか、法人会員になってよかったと思うような仕組みを考えていく必要があると思います。それはオピニオンメンバーも含めて、僕らみんな考えていきたいなと思っているので、「法人会員を増やす」という

ことも入れていきたいなと思っています。以上です。

議長：ありがとうございます。他にございませんでしょうか。オンラインの方々もよろしいでしょうか。特にないですか。はい、よろしいですね。第4号議案は報告でございますので、こちらでご承認の可否は取りません。

議長：それで、前半、かなり飛ばしてきましたので、結果的に驚くばかりに時間があるんです。この際だから言っておきたいということはあるですか？ 議案に関わらず。

議長：はい。田村さん。お願いします。

田村：どうでもいいことですけど（笑）。歯科衛生士の正会員にバッジ、（バッジの画像を提示）こういうバッジを配るようなんですが、これが4年でしたっけ？ 秋元さん、すみません、4年？ 赤いのは多分、認定衛生士だと思うんですよ。

秋元：入会すると黄色。次が4年目で白です。田村さんのご意見を言ってください。

田村：これ、私、いらないというのもあるんですけども（笑）、なんで4年目にくれる？ その4年っていう意味が知りたいのと、あと、これは正会員の歯科衛生士にだけしかくられていないみたいで。例えば、うちの医院には歯科技工士がいたり、正会員の受付がいたりするわけですが、その人たちはもらえていないみたいなんですよ。なので、このバッジはいるのかどうか。ここにもお金がかかっていると思うんですよ。なんか、「いるんですか？ これ」というところです。私としては。

この認定衛生士を取った時のバッジは、まああってもいいのかな。身に着けてはいないですけども。

秋元：認定衛生士については、実は最初、もっとおしゃれなブローチ状のものを作ったんですね。

田村：これしかもらっていないよ。持っています？ 志摩さん、持っています？

秋元：もらっているよね。もらっていない？

田村：みんな、覚えていないぐらいなんです。

秋元：「いらない」という意見を今まで聞いていません。

田村：いらない。いらないよね。お金の無駄です。

後日調べ：黄色に研究会のマークをあしらった歯科衛生士正会員のピンバッジは、会員証と共に研究会設立時の1998年から交付されている。

2002年からは正会員を3年継続した歯科衛生士に銀バッジの贈呈が始まり、今日に至っている。

また、認定歯科衛生士への贈呈品については、研究会で実施されていた「歯科衛生士卒後教育プログラム・ファイナル」の研修(2004年8月)に際して研究会のマークにキュレットをあしらったシルバーのオリジナルブローチを贈呈したのが始まりである。

2007年4月の第1回歯科衛生士育成プログラムによるヘルスケア歯科衛生士の認定(2007年3月)に際し、現在の赤い金属バッジが初回11名に贈呈され、以来認定歯科衛生士に贈られている。



左上：入会時・左下：4年目
右上：現在の認定歯科衛生士
右下：2004年8月研修時

秋元：これはこの場で。長く続けてきたっていうのと、予算、金額そのものはそれほどでないにしても、ある一定数を作らないと単価は下がりませんから、在庫ありきで作っています。ということは、将来的にも続けるという見通しがあって作っているわけなんです。

ですので、ここで「いらない」ということであれば、すぐ無しにするかどうか分かりませんが、方向をオピニオンメンバー会議で決めていただくことは必要だと思います。つまり、急にすぐ対応しにくいものですので、数を作らなきゃいけないということがありますので、今のは予算絡みの動議だというふうに、議長、考えていただけますか。

議長：河野(正)先生、お願いします。

河野(正)：今、秋元さんは「熊谷先生絡みじゃないか」って言いましたが、熊谷先生が在籍されていた時は、歯科衛生士が会員になるという概念がなかったんですよ。歯科衛生士は無料の準会員というものだったので、正会員にではないと思うんですけども、それは準会員にやったのかもしれない。

田村：準会員にはなかったですよ。

河野(正)：在庫がどのくらいあるのかとか、それを見ながら何年後に廃止とか。先ほど、秋元さんは「オピニオンメンバー会議で」とおっしゃっていましたが、もちろん、そういうこと決定についてはオピニオンメンバー会議が最終決定になると思いますけれども、コアメンバーのほうで「今後どうするか」というのは議論して提案していただくことになると思います。それでよろしいでしょうか。

田村：ええ。

河野(正)：いらないのね。どっちかというと。

田村：いらないと思います。(笑)

議長：河野歯科医院の田村さんに確認させていただきたいんですけども、「まるっきりい

らないよね」なのか、さっき、「技工士とか受付の会員も」とおっしゃいましたが、「技工士と受付にもくれないか？」という話なのか、どうなのですか。

田村：技工士も「別にいらないけど」と言っていました。「全然いらないけど、でも、なんで衛生士だけなのかなというの疑問に思った」と言っていましたから。ということです。私はいらない。

議長：お三方、衛生士の田村さん、落合さん、蓮見さん、並んでいらっしゃいますが、皆さん、うなずいてらっしゃる。確認をしましょう。「必要だ」というか、「欲しいじゃん」という方とかはいらっしゃいますか。あと、「うちの衛生士にあげたい」と思っている先生とか。オンラインでもご意見があれば。なんだか、だんだん廃止の方向に傾いているのは早過ぎる感じがするんですが（笑）。

秋元：ピンバッジっていう、プラスチックのバッジなんですけれども。それと、今、認定をもらった時には赤い、もうちょっと大きな金属のメタルのバッジがあるんですね。これを分けて考えているんです。今の田村さんのご意見は、「よく分からない、いつくれるか分からない、私の引き出しに入っているこのバッジ、何？」っていう、そういう、そっちの話なんですよね。

これ、一言で言っていますと、今、田村さんも蓮見さんも落合さんも「いらないよね」という意見ですよ。実は、このバッジを、僕は誰がどういうふうにしたか、はっきり記憶がないんですが、「こういうバッジを作ろう」と言ったのは、100%ドクターなんです。ということは、そういうこと。この会がドクター中心に運営されている中で、歯科衛生士に対してこういうバッジを作ろうというのは、当然、ドクターの発想なんです。もっと言うと、院長の発想なの。ということははっきりしています。

議長：秋元さん、ありがとうございます。

秋元：今、初めて受け取る側から「いらない」という意見が出たということなんです。

議長：「赤はあっていいよ」ということですか、田村さん。

田村：あってもいいですが、それは付けない。

議長：付けないですけれども、「くれるんならもらおうか」みたいな。

古市：うちのスタッフの話ですが、認定衛生士の試験を受けては落ちて、また落ちてというような感じなので、苦労して取っている資格なんで、何かしらのそれを示すものはあってもいいかなと。

盾みたいな何かはあってはいいと思うんで。そのブローチも、僕は安いのがあればいいと思うんです。何かその人を、言うたら賞せるものがあるのがいいんじゃないかと思うので。それこそ、さっき斉藤先生がおっしゃったんですが、フォーラムで何かまたそういうようなのを決めてもいいんじゃないでしょうかね。

田村：認定衛生士を取った時のピンク（赤）のバッジはあってもいいけれども、下（正会員・4年目会員）のはいらないかなと思います。

志摩：私も別にいらないかなと思って。白衣に付けたりはしないんで、残念ながら。洗うこ

ととかを考えるとしないんで、いらなかなと思います。

大塚：認定衛生士になってバッジをいただいた時は、正直、すごうれしかったです。ただ、使ってはいないですけども、それがあるといので、「取れた」という思いになれてうれしかったので、その「うれしい」という思いをされる方は、私みたいにその認定になった時はいるんじゃないかなと思うんですけども、会員になった時と4年目はいらなかなもしれないです。

議長：ありがとうございます。大井先生、お願いします。

大井：具体的には無いんですけども、認定衛生士を取った時に、それこそ普段付けられるようなものだとしたら、どんなものなら白衣に付けられるんですか。いや、仮にそういうのがあるとしたら、それなりの意味が出るでしょ？ より一層、うれしくないですか？

議長：ありがとうございます。

渡辺：僕は他の医院で見た時に、ベストが違うっていうのはありました。歯科衛生士の中でも、ちょっと特別な資格を持った人たちは別なベストを上さらに着ていたんです。発想としてはそうですね。見学で見た時、僕は正直言うと違和感を覚えて、「ランクがあるんだ」って思ったんです。そういうのはあることはあります。

斉藤：うちもバッジは付けないで、捨てるに捨てられないんで、スタッフルームに山積みになっているんですよ。やっぱり、付けるのはあれなんで。だから、例えば名札とかゴーグルとか、普段使うものの中に「ヘルスケア認定歯科衛生士」と書いているのがあって、たくさんいる衛生士の中でその人だけそれを付けていて、例えば患者さんから「なんで？ 何、それ？」と聞かれて時に、「実はこうこう、こうなんだ」って言えるものが何かあればいいと思うので、そこは何かみんなで、特に歯科衛生士さんを中心に考えていくと面白いんじゃないかなと思います。

議長：ではこの議題は、コア会議に委ねます。オンライン上の山田美穂さん、いらっしゃいますか。

山田：田村さんたちが言っていたのと、私の意見は同感です。で、斉藤先生がさっき言っていた「認定を持っている歯科衛生士が院内で分かるように何か考えたらいんじゃないか」というのも「いいな」と思ったので、これから少しずつ揉んでいけばいいと私は思います。いかがでしょうか。

何かしらもらえることはうれしいと思う。私ももちろん使ってはいないんですが、何か使えるものを考えるというのもありだと思いますし、認定を取った証明というのは、賞状以外に何かあるとモチベーション的にも上がるかなとは思っています。

議長：ありがとうございます。杉山麻里恵さん、いかがでしょうか。

杉山：そうですね、何かしらもらえたらすごくありがたいなと思いますけど、私ももらいましたが、毎日の洗濯とかを考えると付けていなかったですね。以上です。

議長：ありがとうございます。議案より盛り上がっている感じが非常にうれしいんですが、結局、時間がだいぶ押してきています。はい、落合さん。

落合：こんにちは、落合です。認定をもらった時のバッジは、個人的には「頑張った自分のもの」というのもあると思うんですけども、患者さんって意外と名札を見るので、名札に付けられるようなものがあるとちょっと箔が付くというか。「この人はちょっと違う人なのね」って、患者さんからいつもこう言っていただけるとか、そういうような役割になると、さらに衛生士としてはモチベーションが上がるので、患者さんが見て分かるようなものを考えていくというのがいいかなと思いました。ものに関してです。

議長：ありがとうございました。では、この辺で区切りたいと思います。

議長：松尾先生から。チャットを皆さん、ご覧になってください。ご提案をいただいています。

渡辺：(代読) ピンバッジは服に穴あきますしヘルスケアデザインの手用スケーラーとか(消耗品かもしれませんが) 衛生士さん側に何がほしいかアンケートとるといいのかな、とかと思いました。

議長：渡辺先生、ありがとうございます。

議長：では次の発言、西村先生、お願いします。

西村：すみません、お時間が少ない中。ホームページの改訂というのを秋元さんからも言われています。そのホームページの改訂に少し携わらせていただいているんですが、秋元さんからの提案では、「一般向けの人々のホームページがやっぱりあるほうがいいんじゃないか」というのを伺っています。それは10年ビジョン委員会でも、「一般の方への周知というのが少ないので、ホームページにそういうのがあれば」という話があったので、その辺は積極的にやっていったほうがいいかなとは思っています。

それを作るにあたって聞きたいことがあります。一般向けの人と、次、会員じゃなくて、会員の前に歯科医療関係者向けというのがあると思うんですね。押すとしたら。それをヘルスケア歯科学会としては、やっぱり歯科医療関係者向けのページを作るべきなのか、それとも、もうちょっと広げて医療関係者、これからの時代やったら、それこそ介護施設での職員さんとか、そういうリエスマネジメントのことについて知りたいということでヘルスケア歯科学会のホームページを探される方もいらっしゃるかもしれないので、「歯科医療関係者向け」というふうにするのか。「医療関係者向け」というふうにちょっと大きな括り、医療関係じゃなくてもいいですけども、歯科に限らず入れるような感じですかというのをもし伺えたら、ホームページとかにできるかなというのと。

それをするのであれば、今後、曾野先生が10年ビジョンでもおっしゃられていたように、他の、歯科に限らず、そういう介护士さんだとか、そういう方とのつながりみたいになっていうのを今後発展させていくのかどうか、というの、コアの皆さんにご意見を伺えたらなと思いました。

議長：ありがとうございました。コアメンバーの方からご発言がありますでしょうか。

今、丸山先生からご提案がありまして、コアメンバーの方々じゃなくて、今、ご参加されている方々からご意見があれば、枠を広げます。いかがでしょうか。大井先生。

大井：認定分科会への申請を計画しているということですから、より広くということを見ると、歯科医療関係者というふうに限定するんじゃなく、医療関係者。「一般の方」と「医療関係者」、あと、「会員」という3つのカテゴリーに分けるのがよろしいかなと僕は思います。

議長：ありがとうございます。寄る年波というか、オンラインと会場とを両方見るのがだんだんできなくなっているんですけども、こちらについてはメーリングリスト等でご発言いただくようにしたいかなと思いますが、よろしいでしょうか。丸山先生、何かありますか。

丸山：私も「ホームページを新しくするぞ」のメンバーの1人です。西村先生と一緒にやるんですが、正直、「一般の人向けはちゃんとやんなきゃいけないよね」というのがあって、で、会員向けと別に、歯科医療従事者向けがあるもんだとはなんとなく思っています。それをもう一つ広げるとというのが今まで私の発想にはあまりなかったもので、ここで聞いたのはまず一つOKですし、今後、メーリングリストで、「いや、やっぱり告知広げたほうがいいんじゃないの?」、「そこまではしなくてもいいんじゃないの?」みたいなことがあれば、ご意見は聞いて作り上げていきたいと思っています。

議長：西村先生、お願いします。

西村：その時に、「医療従事者向け」ってやると、「歯科医療とかお医者さんとか医療関係の人が『会員になりたい』とかっていうのが出てくるかもしれないかな」というのもあって、1度聞きたいなと思ひまして。「継続的に勉強したいので、そういう歯科医療関係者以外でも入れる何か会員はあるんか」みたいな問い合わせがもしかしたらあるかもしれないということで、ちょっと聞きました。

議長：ありがとうございます。本日は時間がありませんので、継続でメーリングリストなどにて検討ということにいたしましょう。では、これを持ちまして、第7期オピニオンメンバー会議を閉会いたします。審議にご協力いただき、ありがとうございました。

以上